

## 5. まとめ

---

本調査では、25 道府県 215 単位団(有効回答数 78 団)を対象とし、障がいのある子どもの参加状況や指導状況の実態を把握することによって、障がいのある子どもの加入促進を図る方策を検討することを目的とした。その結果、以下のような現状が明らかとなった。

本調査で対象とした単位団のうち、障がいのある子どもを主な対象とした団は 1 団のみであり、多くの単位団では健常児の活動に障がいのある子どもが参加している状況が確認できた。障がいの種類をみると、「発達障がい」(54.7%)が最も多く、また「障がいの種類が分からない」といった回答も 21.3%みられている。障がいの種類数は、8 割が「1 種類」であり、参加している人数は 6 割が「1 人」であった。

障がいのある子どもに対する配慮や工夫についてたずねたところ、何らかの配慮や工夫をしている団が 7 割を占めたが、その多くが「保護者と協力して目配りをする」「専従的な指導員をつけたり、指導員の数を増やしたりしている」「指導者全員が、障がいについて理解し、言葉や対応をわかりやすく伝えられるようにしている」といった対応であり、特別な知識や用具が必要という意見はほとんどみられなかった。また、「バレーボールをしたいという子どもはすべて受け入れており、特に工夫をしてない」「他の子(健常児)と同じように接している」「当初特別な扱いをしないといけないと思ったが、ありのままの形で受け入れ、お互いにストレスのない環境で対応した」などの回答も多く挙げられていた。

スポーツ少年団には、障がいの程度が軽い子どもたちが参加していると推察でき、指導者が子どもの障がいに合わせて接し方を工夫したり、実際には指導者が認識せずに受け入れているケースも多く存在すると思われる。また、保護者とコミュニケーションを図りながら活動を行ったりなどの対応で受け入れていくことは十分可能であると考えられる。しかし、このような対応は障がいの有無に関わらず、子どもに対する指導活動のあり方として必要事項であると言える。

千葉県柏市の総合型地域スポーツクラブ「NPO 法人スマイルクラブ」では、知的障がい児や発達障がい児が参加できる「運動が苦手な子の教室」を開催している。この教室には健常児も参加しており、障がいのある・ないに関わらず運動・スポーツに参加できるような取り組みを行っている。スポーツ少年団は、スポーツによる青少年の健全育成を目的に創設され、「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを!」「スポーツを通じて青少年のこころとからだを育てる組織を地域社会の中に!」という理念を掲げている(日本体育協会日本スポーツ少年団、2015)。単位団の活動状況に合わせて、可能な限り障がいのある子どもも受け入れていこうというメッセージを積極的に発信していくことで、社会教育団体としてのスポーツ少年団の公益性はより高まるとと思われる。

今後、障がいのある子どもを受け入れていくためには、指導者だけではなく、育成母集団やリーダーも含めた団全体でのサポート体制が重要である。本調査では、障がいのある子どもの指導を担当しているのは「登録指導者」が 9 割を占め、「障がいのある子どもの保護者」16.2%、「障がいのない子どもの保護者」10.8%、「リーダー(ジュニア/シニアリーダー)」8.1%という結果が示されている。

スポーツ少年団は、単位団の組織について「自主的に参加した子どもたちと、単位団活動をより良くするために補助的な役割を果たすリーダー、適切な指導・助言で子どもたちの能力を引き出し、より良い社会人へと導くことができる指導者、地域の中で財政面、労力面、精神面にわたって単位団を支えてくれる育成母集団が重要なメンバーとなり、はじめて組織と機能が確立される」(日本体育協会日本スポーツ少年団、2015)と明記している。指導者や保護者・地域住民、異年齢の仲間といった子どもたちのスポーツ活動を取り巻く人々と連携しながら、障がいのある子どもをはじめ、幼児、運動の苦手な子ども、体力・運動能力の低い子どもなど、様々な子どもが参加しやすい活動を目指すとともに、障がいの種類に対してではなく、個々に応じたサポート体制を単位団全体で検討できるような取り組みが望まれる。

.....

文部科学省(2014)が実施した全国の特別支援学校を対象とした調査によると、運動部・クラブがある学校は「小学部」9.4%、「中学部」37.2%、「高等部」58.6%であった。ほぼすべての中学校・高校に運動部活動がある一般校と比べて設置率は低く、中学校期・高校期の障がいのある青少年のスポーツ機会は少ないのが現状である。スポーツ基本法が制定され、障がい者に対するスポーツ支援の意識は高まっている。今後、スポーツ少年団が障がいのある子どもたちにとっての身近なスポーツ活動の受け皿となることが求められる。